

ふるさと歴史アラカルト

絵画資料の面白さ

芸術の秋が近づいてきました。今回はそんな季節に描かれた江戸時代の絵画資料「紅葉栗図」を紹介します。

掛け軸になっているこの資料は、画面上部に和歌が、下部に絵が配されています。絵を見てみると、イガがついた栗の周りに紅葉が描かれています。和歌は「山ざとの秋のすさびやこれならむもみぢがうえに落ちるしぼぐり」とあり、絵と和歌が対応していることが分かります。

この資料の絵と和歌の作者は別の人物です。絵は粟屋滄洲、和歌は香川琴山という人物のもので、どちらも江戸時代後期の岩国の武士です。さらに、香川は家臣の最高職として領主を補佐する役目を担う家老、粟屋は家老に次ぐ中老を務めるなど、江戸時代の岩国で重きを成した二人でもありました。しかし彼らには岩国武士の重役とは異なる一面もありました。香川家は代々歌道を修め、琴山も和歌や俳諧の名手でした。一方、粟屋は絵などを得意とし、弟子を育てるほどでした。「紅

葉栗図」は、お互いの得意分野を生かしたコラボレーション作品ということになります。

このように、1枚の作品を複数人で仕上げることはしばしばあります。よく見られるのは、先に描かれた絵を受けて、余白に賛を添えた形です。しかし「紅葉栗図」は絵と和歌、どちらが先に描かれたか、はっきりと分かりません。あるいは秋を題材にして、話し合いながら一緒に作品を作り出したのかもしれない。香川と粟屋には三十歳ほどの年の差があるものの、家臣の中でも重役を務める二人は、歌人や絵師といった文化人としても互いを認め合い、意気投合したのではないかと想像できます。

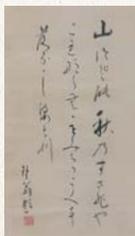
今回「紅葉栗図」と作者のプロフィールを踏まえながら、二人の関係性を想像したように、絵画資料には鑑賞する私たちが想像できる余地が多くあります。こういった資料を見るときは、いろいろと想像しながら見てみるのも面白いかもしれません。

岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館
住所：横山二丁目7-19 ☎(41)0452
休館日：月曜（祝日の場合はその翌日）

※1 大意は「山里の秋の気晴らしになるような面白さというのほまさこれだろう。紅葉の上落ちる栗よ。」

※2 絵やその作者にちなんだ詩歌などの文章



(上部)



(下部)

写真：粟屋滄洲画・香川琴山賛「紅葉栗図」

岩国市 人口・世帯

人口 129,091人【前月比 -86人】 男性 61,521人 女性 67,570人

世帯 65,334世帯【前月比 -40世帯】 ※外国人人口を含む(2022年8月1日現在)

交通事故発生件数

7月分事故件数 12件(113件) 死者数 0人(0人) 傷者数 15人(128人)

※高速道路発生分を除く。()内は2022年累計

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。
お問い合わせは、広報戦略課 ☎(29)5016 FAX(21)3337